

令和元年度 活動報告

調査研究推進部門

1. はじめに

防災に関する教育・研究や行政等の取り組みについて、本センターに係わる教職員および関係機関の情報交換や交流を目的に平成25年度から「鹿大防災セミナー」を実施している。以下、令和元年度に開催した第23回から第26回の概要を報告する。

2. 鹿大防災セミナー開催報告

第23回

日時：令和元年6月18日（火）16時30分～17時50分

会場：理学部理学系先端研究棟2階理学部大会議室（郡元キャンパス）

講演：

「レジリエントな地域社会の実現に向けた防災減災の取り組み」

地震火山地域防災センター 特任研究員 中谷 剛

「最近の地震に関するスライド教材の開発と2019年5月10日日向灘の地震 (M6.3) の例」

理工学域理学系 准教授 小林 励司

（地震火山地域防災センター 調査研究推進部門長）

概要：本学の教職員および学生のほか、鹿児島地方気象台など学外の方々を含め、50名の参加があった。中谷剛特任研究員は、リアルタイムの豪雨・浸水予測の社会実装や、気象災害の防災教育について紹介され、今後の抱負について語られた。小林励司准教授は、国内で発生した地震の解説をするスライド教材について、その開発と実際の例が紹介された。



写真1. 第23回鹿大防災セミナーの様子

第24回

日時：令和元年9月12日（木）16時30分～17時50分

会場：理学部理学系先端研究棟2階理学部大会議室（郡元キャンパス）

講演：

「離島における介護職者の防災に対する認識について－奄美市と五島市の比較－」

医歯学域医学系 助教 今村 圭子

「防災と自然体験活動のすすめ」

総合教育機構共通教育センター 准教授 福満 博隆

概要：本学の教職員、鹿児島地方気象台など学外の方々を含め、27名の参加があった。今村圭子

助教は、介護職員育成における防災教育上の課題を示すことを目的に、鹿児島県奄美市と長崎県五島市とで行われた防災に対する認識の比較調査について報告された。福満博隆准教授は、避難所生活での健康問題を踏まえ、自然体験活動のストレス耐性に及ぼす影響の調査について報告された。

第25回

日時：令和元年 11月27日（水）16時30分～17時50分

会場：大学院連合農学研究科会議室 [3階]（郡元キャンパス）

講演：

「島嶼域サトウキビ圃場の消費水量」

農水産獣医学域農学系 准教授 肥山 浩樹

「3.11以降の災害支援・災害調査活動の振り返りー東日本大震災・熊本地震・口永良部島噴火・東シナ海油類漂着・硫黄山白濁水流出ー」

農水産獣医学域水産学系 教授 西 隆一郎

概要：本学の教職員、鹿児島地方気象台など学外の方々を含め、22名の参加があった。肥山浩樹准教授は、島嶼域における干ばつ等の農業災害を克服するために設置されている地下ダムの歴史や仕組み、サトウキビ圃場の消費水量の測定調査などについて報告され、離島農業が抱える課題と対策を考える機会となった。西隆一郎教授は、同氏が行なってきた多く災害対応から得られた教訓を具体的に説明され、災害調査の際は災害支援も並行して行なうことが重要だと指摘された。

第26回

日時：令和2年 1月22日（水）16時30分～17時50分

会場：工学部共通棟 201 講義室（郡元キャンパス）

講演：

「地震体験から得られること・伝えたいこと」

理工学域工学系 准教授 審良 善和

「船舶レーダによる噴石の検出」

地震火山地域防災センター 特任教授 眞木 雅之

概要：本学の教職員、学生、および鹿児島地方気象台など学外の方々を含め、36名の参加があった。審良善和准教授は、地域住民の防災意識向上を目的とした体験学習プログラムとして行われた、振動台を使った揺れや免震の体験学習や、レゴブロックを使った構造物の振動実験について報告された。眞木雅之特任教授は、船舶レーダを利用した噴石の観測の試みとして、疑似噴石の落下実験や、打ち上げ花火の検出実験、そして実際の桜島での試験観測について報告された。



写真2. 第26回鹿大防災セミナーの様子